

§ 2 聖オディリアホーム乳児院

1. 事業概要

乳児院は児童福祉法 37 条に基づき、家庭で養育できない乳幼児を預かり養育し、あわせて退所したあとの相談その他援助を行うことを目的とする施設である。また、48 条の 2 で地域の住民に対して、児童の養育に関する相談に応じ、助言を行うよう努める役割も求められている。

- ・ 乳児院 定員 60 名
- ・ 地域子育て支援
 - ・ 子どもショートステイ事業：宿泊による一時保育。(定員：中野区 2 名 練馬区 2 名 板橋区 2 名)
 - ・ 地域子育て支援拠点事業：つどいの広場として施設の一室を地域の乳幼児親子に開放。
 - ・ 中野区病後児保育事業：病気の回復期にある乳幼児を日中預かる。

2. 施設運営

(1) 児童数

平成 28 年度は入所児童定員 60 名（暫定定員 60 名）での運営となった。（4 月初日月齢：6 ヶ月未満 11 名、6 ヶ月～1 歳未満 11 名、1～2 歳未満 17 名、2 歳 8 名、3 歳以上 2 名 これにより職員配置基準が決められていく）

初日在籍児数は下記①の通りである。

①初日在籍児数

4 月	47+2 (50+3) 名	10 月	48+1 (46+2) 名
5 月	50+1 (49) 名	11 月	48+1 (48+5) 名
6 月	49+2 (47+1) 名	12 月	51 (53+4) 名
7 月	48+2 (45+2) 名	1 月	48+1 (52+2) 名
8 月	49+3 (46+2) 名	2 月	53+4 (52+5) 名
9 月	51+1 (44+2) 名	3 月	52+5 (50+6) 名

* () 内は昨年度数 * + 数字は一時保護委託数

②年間入退所数

入所数 60 名 (入所理由は虐待が最も多く 3 分の 1 を占める 続いて母の精神疾患、予期せぬ妊娠など)

退所数 60 名 (27 年度は年間で 63 名の退所があった。)

家庭復帰 34 名 (うち児童福祉司指 7 名、一時保護のまま退所 7 名、母子支援施設 2 名含む)

里親委託 11 名 (養子縁組 8 名 養育家庭 3 名)

養護施設 9 名 他の乳児院 4 名 (一時保護のまま移った児 2 名含む)

障害児施設 1 名 病院に一時保護 1 名

一時保護委託で入所してきた児も多く 21 名だった。うち措置入所にならずにそのまま一時保護委託解除になった数は 7 名、一時保護委託変更で他の乳児院に移った児も 2 名いた。(27 年度は一時保護委託での入所が 22 名、うち一時保護委託のままの解除が 7 名)

入所後、面会が開始になったとしても施設と関係を作っていくのは難しい保護者が多く、ましてや一時保護のまま解除になってしまう場合は児童相談所を通してでしか保護者に児の成長・発達など気づいた点を伝えることが出来ない。

28 年度の入所児数は 60 名、退所児数は 60 名で入所や退所が多く大変だった。窓口になる家庭支援専門相談員や事務員の仕事量が多くなる。児童相談所とのやりとり（電話、担当福祉司、心理司の訪問だけでなく医療連携員や家庭復帰支援員などが複数回来院することもある。）また、一時保護委託の場合は措置児とは別処理となり、事務仕事も多くなる。心理士が個別に書類を作成したり、事務員が措置費の請求も毎月、児童ひとりひとり各児童相談所ごとに用意する必要がある。

里親委託は 11 名だった。(27 年度 13 名) 里親支援専門相談員は退所後も 2 年間は定期的にアフターケアとして家庭訪問や来院した親子の対応をしている。家庭訪問などすべて児童相談所に書類報告をしており、里親委託が急激に増えた 27 年度と合わせて里親支援専門相談員の仕事も増える一方である。

(2) 職 員 平成 28 年 4 月 1 日 : 88 名 (内非常勤 16 名)

⇒平成 29 年 4 月 1 日 : 93 名 (内非常勤 16 名)

* 28 年度中の入退職

【新規採用者 20 名 (内非常勤 3 名)】

⇒保育士 : 11 名 (内非常勤 2)、看護師 : 1、栄養士 : 2 名、相談員 : 2 名、調理師 2 名、事務 1 名、用務 1 名 (非常勤)

【退職者 11 名 (内非常勤 1 名)】

⇒保育士 : 7 名 (内非常勤 1 名)、 栄養士 1 名、調理師 1 名、相談員 : 1 名、事務 1 名

【職種変更者 1 名】

保育統括主任⇒保育統括主任、副施設長

* 処遇改善費の支給 : (6 月) 3,604 千円 (内、非常勤 271 千円)

(12 月) 8,155 千円 (内、非常勤 767 千円)

(3) 児童処遇

○今年度も「家庭的な生活環境の充実」に取り組み、担当制グループ保育・低月齢児の保育の充実、成長・発達の保障としてリスクの軽減を図った。また、専門養育機能強化型乳児院モデル事業として取り組み、実施結果からは家庭復帰とともに里親委託にも大きな効果があると判断された。

○無理強いすることなく食事のマナーを身につけながら楽しい食事ができるよう取り組みをすすめた。離乳食児ができるだけ一対一で食事できるよう食べる時間を工夫したり、グループ同士で協力し合った。また、保育部門は栄養部門や支援部門（心理士や作業療法士）とも連携を図り、個々の子どもの成長・発達に合わせた関わりをおこなってきた。(例えば職員が話しかけることが楽しい食事なのか、児らが食べることに集中しているとき、それは却って食事を妨げることにならないのかなどのお話し合いを行なった。)

○聖オディリアホーム乳児院の職員として資質の向上の為、「見守る」「応える」「自己コントロール・責任感」「チームワーク」の内容を具体化して毎月の権利擁護として挙げ、毎朝の朝礼で復唱し日常の保育の中で更なる意識づけを行った。

また意識付けができていくかを、月に2回のチェックリストを通じて各自で振り返りし部屋のミーティングで共有した。以前は「～できた」「～できている」というような意見が多かったが、他職員や部屋の意見を共有していくことで「～のときにイライラしてしまった」「～できなかった」などの意見がよく出てくるようになり、振り返りを継続していく意義が出てきている事が見えてきている。

○特定の保育者と安定した愛着を形成し、子どもの安心感、自他への基本的な信頼感を育み受容的な環境の中で子ども中心の時間を過ごすことを目的にするため、1対1の時間を定期的に設けている。今年度は主に低月齢児（5か月未満児）の個別時間取得についての重要性を共有し1対1で過ごす時間を増やし取り組んだ。

○低月齢児の沐浴時間を工夫して、午前中に外気浴の時間を多く設けることができた。

○年長児保育「ひまわり」今年度も週に1回実施した。対象児の月齢が下がることに合わせ一層の工夫が必要になった。体幹の弱い児が増え、作業療法士と相談しながら運動を取り入れたり、ダウン症児が在籍し作業療法士と連携しながら食事など細かく対応した。一斉活動の際に、保育士による目で見える形の手本が必要となったり、遊びにも保育士の介入が増えた。

① 行事

（上期）

4月 12日昼食調理保育（テレサ室）やきそば。食材に触れ調理過程での音やにおいなどを感じ、食べることを楽しむことができた。

5月 5日こどもの日（全児） 天気がよく、ベランダでお弁当を食べたり、折り紙で作ったこいのぼりの中にお菓子をいれ、宝探しをして楽しんだ。

12日昼食調理保育（アンナ室）焼きうどん、きのこスープ。実際に食材に触れることで調理の楽しさを体験できた。

27日部屋遠足（ローザ室）東京おもちゃ美術館。

6月 13日おやつ調理保育（ローザ室）チョコレートパフェ。玩具のナイフを使ってバナナを切ったり盛り付けを楽しんだ。

21日年長児保育（ひまわり）じゃがいもほり。北中野中学校前の畑にて。

7月 7日七夕（全児） 甚平や浴衣をきたり、短冊に願い事を書き七夕の日を楽しむことができた、会食を通してボランティアの方々へ感謝の気持ちを伝えることができた。

8月 10日すいか割り（全児） 夏の風物詩として楽しむことができた。

10日昼食調理保育（テレサ室）おにぎり。おかずは事前に調理室から用意してもらい、お弁当箱にそれぞれが詰める。自分の好きなものを詰めて楽しそうにお弁当を作っていた。部屋で炊飯器でご飯を炊き、家庭的な雰囲気を味わった。

23日昼食調理保育（アンナ室）カレーライス、ブロッコリーのおかか和え。調理職員が野菜を切るのを興味深く見ているのが印象的だった。

9月 1日、8日 アンパンマンミュージアム遠足（1歳3ヶ月以上、幼児食で、歩行が安定している児）

10日おやつ調理保育（アンナ室）イチゴフルーチェのバナナトッピング。普段ままごとで遊んでいる混ぜる、切るを実際に体験することができた。

(下期)

○遠足・ピクニック

・全体遠足 (アンパンマンミュージアム)

10月20日テレサ室 (井の頭自然文化園) 少人数で1対1でゆったりと動物を見て楽しんだ。

20日クララ室さくらんぼばななグループ (富士見台公園・風の子広場) グループごとに公園で遊んでからお弁当を食べた。

26日アンナ室 (井の頭自然文化園) モルモットふれあいコーナーでは動物と触れ合う貴重な体験ができた。

11月11日クララ室 (キンダーベース明大前) 大型遊具やボールプールなどで自由に遊び、普段体験できないことを保育者と楽しんだ。

○季節の行事

・運動会 (降水確率が高く中止になったが、事前にダンスの練習をしたり雰囲気を楽しんだ)

・ハロウィン (地域、院内) ・冬至 ・クリスマス ・正月 ・節分 ・ひなまつり

(クリスマスなどの会食の際は、大型絵本やパネルシアターを用意して、全体で楽しめるようにしていきたい)

○調理保育 (おやつや昼食)

9月27日 (ローザ室おやつ) フルーチェのフルーツ盛り。ままごと遊びの中で行っている食材を切る、盛り付ける動作を実際に行う。保育者の介助でバナナを切って楽しむ。

30日 (アンナ室おやつ) フルーチェのバナナトッピング。混ぜたり、切ったりを本物で体験し実際に食べる体験が楽しくできた。

10月12日 (テレサ室昼食) 白米 (ふりかけ)、ハンバーグ、じゃがバター、ゆでニンジン、野菜のスープ。食材に触れ、調理過程での音や匂いを感じることができた。

12月2日 (テレサ室おやつ) パンの型抜きディップ、トッピング。自分で選んだ具材をトッピングすることでいつもとは違ったおやつを楽しむことができた。

7日 (ローザ室おやつ) プリンアラモード。盛り付けや、飾り付けを体験することができた。

1月27日 (クララ室おやつ) クッキーサンド。好きな食材を選びながらみんなで食べることができた。

② 健康

個々の月齢にあわせ、嘱託医 (順天堂練馬病院、Dr花岡) による健診と定期予防接種 (近隣小児科) を実施した。病虚弱児の申請と確認を行い障害に合わせたケアが行えるように努めた。

また、毎月、感染症発症の状況を記録して、衛生委員会で対応の振り返りをおこないマニュアルの見直しを行った。

<p>4月</p> <p>ロタウイルス感染症が3月に3部屋に拡大した原因等を振り返り、今後の対策を話し合った。 手洗いの徹底（特に食事介助や授乳前）。汚物、嘔吐物の処置の仕方を再度確認した。</p>
<p>5/20・5/30 新職員手洗いチェック</p> <p>5/31 害虫駆除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・午睡時睡眠チェック表を新規で作成し開始した。 ・病院受診マニュアル作成 ・前年度の薬関連の事故報告書を集計し原因を追究し今後の対策を話し合い今後アクシデントとインシデントに分けて集計する。
<p>6/3 布団乾燥</p> <p>6/17 看護師会議 1回目（CPR マニュアルについて）</p> <p><ベビーベット購入>ナーサリーベット 4台乳児折り畳みベット 2台</p>
<p>7/22 子ども歯科健診 磨き残し数名見られた</p> <p>7/11・7/19 職員健診</p> <ul style="list-style-type: none"> ・RSウイルス感染症発症と無熱性痙攣児の救急搬送の振り返りをし今後の対応を見直した。
<p>8/8 害虫駆除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うつぶせ寝で死亡している事故が多い事について、予防策を確認しあった。
<p>9/9 布団乾燥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痙攣チェック表作成
<p>10/8 病虚弱児会議</p> <p>10/28 看護師会議 2回目</p> <p>(SV 花岡医師)3か月未満児を感染症から守るためには</p> <p>10月 高木小児科の協力によりインフルエンザの予防接種を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病虚弱児アンケート集計とルカ室の有孔ボードの設置。
<p>11/21 害虫駆除</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウイルバスの使用基準を話し合った。
<p>1/16・1/17 夜勤職員健診</p>
<p>2/1 子ども歯科健診 しもしげ歯科の協力により健診を実施した。</p> <p>2/3 布団乾燥</p> <p>2/28 看護師会議 3回目（SV 花岡 Dr）</p>

③ 調理

○哺乳瓶をビンからプラスチックへ変更していく

主任会や保育室ミーティングで検討することが想定以上に多く、時間を必要としたため、今年度中の移行はできなかったが、保育室の意見も反映しながら、移行に必要な調理室の新勤務体制作成とそれに付随する書式・マニュアルの作成、調理保育の実施方法の変更検討、備品の発注など、段階を経て進められた。29年8月より移行できるよう引き続き進めていく。

○離乳食の適切な調理

離乳食児の食事の様子を見学にいき、食べ方とその変化を見て、離乳食の食べやすい食材の大きさ、固さなどを理解し、離乳食に適した食材の大きさ、固さで調理ができることを目標にした。しかし、見学に行く時間が取りづらく、下期に平均1回しか見学に行けなかった。それでも食材の煮崩れなどに気をつけて調理することはできた。

④家庭支援、里親支援、心理

○専門養育機能強化型乳児院（平成29年度より家庭養育推進事業へ名称変更）としての取り組み支援会義を設定し、小児科医、作業療法士、臨床心理士の他、家庭支援専門相談員、里親支援相談員、看護主任、保育統括主任等の関係職員により施設内の治療的環境作りの調整を行った。また、全児童の状況について、それぞれの支援内容を「入所児童と保護者等への支援の実施状況」一覧に落とし込み、今後の支援について協議を行った。

また、個別のケースについては小児科医の診立てに基づく今後の支援のあり方について協議を始めた。

○家庭支援

・里親支援専門相談員と連携し、里親委託候補児の情報を共有しながら児童相談所と連絡を取ることができた。

・ケース会議や、自立支援計画の書式について見直しと心理を交えた話し合いを行ったが、次年度はさらに見やすく書きやすい書式にしていきたい。

○里親支援

・児童相談センター3回、足立児童相談所2回、北児童相談所2回、杉並児童相談所2回の里親委託等推進委員会に候補児を9ケース選出し早期家庭復帰の予定のない児らの里親委託をすすめた。

・アフターケアとして19ケースに25回の家庭訪問を実施した。

・東京都里親研修への協力として、里親委託研修見学実習6月、10月 里親認定前研修4月、12月 認定前研修6月 登録後研修10月 登録後更新時研修9月 それぞれ1~2組の里親に研修を実施した。

○心理

・ケース会議や生活場面面接を通して児の成長・発達を知り担当職員、グループ職員が適切に養育できるよう支援していくことを目標にしたが定期的に観察することが難しく、職員との情報共有が十分ではないことがあった。

・必要な玩具をそろえるのに時間がかかりプレイセラピーの導入に時間がかかってしまった。次年度はプレイルームの環境を整えることも目標にしていきたい。

（4）研修・会議

職員会議、主任会議、支援会議、各室の運営に関わるミーティング、各室の児童の発達に関わるミーティング、委員会による会議のほか、各児童の月齢に合わせたケース会議など事業計画にもとづき実施した。また、28年度より1年間かけて新職員育成プログラムを実施した。

院内研修は以下の通りである。同じ法人のピオ保育園の保育士による院内研修「子どもの遊びについて」を1月に計画したがお互いの施設に感染症がでて、次年度に延期となった。（→29年4月20日に実施した）院外研修も希望や、適性にあわせて年間で計画をたて実施した。

○院内研修状況報告

	衛生・安全委員会 (職員会議ミニレクチャー)	院内研修委員会
4月		・4/15、4/19 乳児院の目的、聖オディリアホームの基本理念、運営方針、望まれる職員像 (本名理事長)
7月		・6/19・6/20 救急救命講習 (野方消防署) 第一回院内研修「大人のストレッチ (腰痛・肩こりについて)」実施 (6/28、講師：萩之内OT)
9月	・8/1、8/16「救急車を呼んだ時の対応」	・8/1 順天堂練馬病院小児外科田中医師「膈ヘルニア、腸閉そく、便秘について」 第2回院内研修「大人の精神疾患」実施 (8/27、講師：長谷川昌子心理士)
10月	・9/16、9/20「B型肝炎ワクチンの予防接種について」	・9/6 養護施設見学「清瀬子供の家」 ・9/5 起震車体験 (野方消防署)
11月	・10/14、10/18「誤薬ヒヤリハットについて」	・10/20・10/25 救急救命講習 (野方消防署) ・「養育里親の体験発表会」実施 (10/15、講師：白熊ご夫妻) ・10/18 (火) ベタニア修道女会シスター松本圭世講和：「愛について」
12月		・11/18 河北総合病院小児科 小澤医師「痙攣とアザについて」 ・第3回院内研修「児童相談所について」実施 (11/30、講師：宮島清先生) ・11/15 (火) ベタニア修道女会シスター松本圭世講和：「愛について」
1月	・12/16、12/20「誤薬ヒヤリハットの記入について」	
2月	・1/13、1/17「吐物・汚物の処理」	
3月	・2/10、2/14「同意書、承諾書について」	・「リスクマネジメントの拡充」についてグループ勉強会 (2/3、2/21、2/24)
		・「リスクマネジメントの拡充」についてグループ勉強会 (3/2、3/9) ・事例検討会「ミルク量が増えてしまう児について」実施 (3/13、講師：酒井道子先生) ・3/24 順天堂練馬病院講義 笠井医師 (感染症について)

○新職員育成プログラム

月	指導者	内容（乳幼児の養育に必要な専門的知識）	（衛生関連）	説明日
5月	統括主任 看護師	オディリアホーム乳児院 Q&A ・勤務変更・超勤・年休・遅刻・病気やけが・退職・忌引き・婚姻休暇・出産・海外旅行・研修・領収書・小口 ・仮払金請求・物品購入・その他 守秘義務・電話対応（内線・外線・部屋の携帯）・出勤の心得	・手洗い方法の説明と実施 ・与薬マニュアル ・与薬管理表の作成手順 ・服薬・座薬・点耳薬・点眼薬・軟膏 ホクナリンテープ等	5/2 相川 高田 宗方 岩木 5/30 堀之内 川村 堀内
6月	統括主任	養育者として望まれるもの 第1節 包括的養育体制の重要性 第2節 養育者に望まれる条件・特性・能力 ＜資料＞乳幼児の発育・発達のためやす 乳児期～幼児期前期の おおよその発達の流れ DENVER II 記録票	・発熱時の対応（クーリング法） ・鼻汁吸引マニュアル	6/6 堀之内 高田 宗方 岩木 6/27 相川 川村 堀内 遠藤
7月	統括主任	離乳食を始める条件（OT 研修資料をもとに） 離乳食期のスプーン・フォークの練習 子ども服購入時のアドバイス 衣類マニュアル 靴の選び方	・嘔吐、下痢時の対応 ・発疹の対応、 ・咳の対応	7/4 相川 高田 宗方 堀内 7/25 堀之内 遠藤 川村 岩木
8月	統括主任	・「笑顔で働く理由」全国乳児院福祉協議会DVD 15分 ・外線の取り次ぎ方（保留 転送）の仕方 ・乳児院の役割と理念（乳児院 運営ハンドブック） ・風邪、熱、腹痛、下痢、腰痛・・・職場への連絡方法	・バイタルサインチェック（体温・呼吸・脈拍） ・パルスオキシメーター（血中酸素濃度測定） ・大ベット組み立て方法を実践	8/1 遠藤 堀之内 宗方 堀内 8/22 相川 高田 川村 岩木
9月	統括主任	・～記録～ 発達記録＜行動の記録＞＜入所児記録＞＜施設交流記録＞＜カンガルー＞ ・育成記録（他の職員の育成記録から学ぶ）30分	・浣腸、綿棒刺激マニュアル ・ベビーセンス使用マニュアル ・吸入マニュアル ・陥没呼吸、熱性痙攣を動画で見る	9/5 相川 高田 川村 堀内 9/26 堀之内 遠藤 宗方

10月	統括主任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児院におけるアセスメント ・ ジェノグラムの書き方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上半期の振り返り ・ 母子手帳の見方、記入の仕方 ・ 入所児の健康管理について ・ 嘱託医による診察の受け方 ・ 乳幼児健康診査・予防接種・歯科健診 ・ 健康管理（カルテ）の記入の仕方 	10/3 相川 高田 宗方 堀内 10/24 堀之内 遠藤 川村 岩木
11月	里親支援 相談員 施設長 副施設長 統括主任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里親制度 里親支援（宗則） ・ 入所半年後の施設長 副施設長 統括主任と交えてのディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院受診マニュアル 	11/7 堀之内 岩木 宗方 11/28 川村 堀内 相川 遠藤
12月	統括主任	<ul style="list-style-type: none"> ・ フローチャート（緊急・事故・火災・地震）の対応 ・ 入所児SK・SK・HK・K ・段階表・お食い初め 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症発症時対応マニュアル ・ 障がい及び病虚弱児マニュアル ・ 順天堂練馬病院受診、救急外来受診 	12/5 宗方 相川 岩木 高田 12/26 川村 堀内 堀之内 遠藤
1月	副施設長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児院におけるリスクマネジメント（佐久間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPR(心肺蘇生)、AEDの使い方 ・ 嘔吐、吐物の処理の仕方(DVD)を見る ・ 各同意書・承諾書について ・ 振り返り 	1/16 相川 高田 川村 岩木 1/30 堀之内 遠藤 宗方 堀内
2月	統括主任	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿直マニュアルの説明 ・ 緊急入所対応 緊急病院受診の対応 		2/6 川村 堀内 堀之内 2/27 高田 相川 宗方 岩木
3月	地域支援員 副施設長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児院における地域支援(30分) ・ 人事考課説明(30分) 		3/6 相川 岩木 3/27 堀之内 高田 川村 宗方 堀内

(5) 防災・防犯・安全

○防災・防犯

・毎月2回の避難訓練（火事だけでなく地震も想定。昼間だけでなく夜間も想定）の実施のほか9月5日、起震車による地震体験実施。12月、1月で上級救命講習を受けていない職員は講習を受けた。防災リュックの中身の整理、統一や防災倉庫の点検ができた。

・防犯対策として、建物の周りに監視カメラを増設した。

○安全

・毎月の安全委員会の中で各部屋の事故や怪我の報告と対策について話し合った。扉のチャイルドロックや床のすべり止めのマットを必要に応じて購入した。

・食物アレルギーのチェックリストの見直しを行った。

・過去3年間の各室の集計結果の見直しをした。その時の月齢、月齢差、季節(新職員の入退職の時期)などその時によって怪我や事故の件数などに変動があるように感じられた。各部屋ミーティングなどで今はどのような事故が考えられるかなど話し合いを行うことができた。

・ヒヤリハットの見直しをし、新しくなった箇所を追加した。新職員が入ってきた際はマップを見ながら危険な個所を伝えられるようにした。

(6) ボランティア・実習生

○ボランティア

昨年度と同じ方々にボランティアで関わって頂く。

縫製のボランティアの方は4組の方々、ほかに個人で縫製に関わる方、紙芝居や手遊びなどを訪問して月に1度してくださるの方々、行事のときの絵本の読み聞かせや写真を撮ってくださる方など。今年度は刺繍ボランティアの方から話があり、施設側とボランティアの方の要望をすり合わせて受け入れすることができた。年間の報告は以下の通りである。

5月	学生ボランティアについて高校側と話し合い受入れ準備を行った。集いの広場にて受入れ開始。
7月	七夕祭りは地域の方々5名が紙芝居やお手伝いとして参加。 草取り、高校生が参加
9月	中野区社協主催のボランティア養成講座には10名が参加。そのうち1名は定期的に縫製ボランティアとして活動することになった。
10月	運動会写真ボランティア1名
12月	クリスマス食事会参加1名 集いの広場のクリスマス会には地域の読み聞かせボランティア5名、写真ボランティアが来院。区立かみさぎ幼稚園年長児が演奏を行い好評を得た。
2月	稔ヶ丘高校校長先生と懇談次年度も引き続き受け入れることになった。
3月	年間の製作枚数は達成できた。受入れ態勢も整えることができた。

○実習

- ・実習生は例年通り、実習委員会が中心となって14校の学校から2名ずつの受け入れをおこなった。オリエンテーションの時に基本理念、保育指針などをその場で実習生と読み進めていき、不明点や疑問点はないか質問を募り、丁寧な進行を努めることができた。
- ・反省会や指導する際、マニュアルを見ながら伝えることが難しかった。十分な時間を取ることは難しいと思うが、各部屋協力してもらいながら反省会時には一度マニュアルを見ながら振り返りを行ってけると良い。
- ・実習日誌、実習生チェックリストの記入忘れや遅れを避ける為に、連絡ノートや保育日誌に当日の実習担当者を記入した。

(7) 工事・購入、環境整備

- ショートステイの拡充に伴う部屋の改修工事は10月～12月で行い、1月より使用開始した。
- 環境整備委員会は、様々な修繕の依頼に対して迅速に対応することが出来た。壊れているベビーカーを処分し、新たにベビーカーを購入している。ベビーカーに番号や、使用できる年齢や体重を貼ることで、使いやすく、事故を未然に防げるようにした。また、ベビーカー置き場の整理整頓が常に出来るように、置き場を分かりやすく整備した。
- 紙おむつの発注は、職員の協力も得て速やかに片付けることが出来、在庫切れで困ることのないようにすることが出来た。
- 修繕依頼があった場合、専用の用紙に作ったので記入して提出することになっているが、口頭での依頼が多いので、周知徹底したい。

28年度の主な工事・購入など下記の通りである。(単位：千円)

工事	ショートステイルーム改修工事	22,950
	同上設計委嘱	972
	監視カメラ等増設工事	1,468
購入	ベビーベッド(6台)	619
	ベビーセンサーリース契約	648

(8) 地域交流・支援事業

- 7月1日 第1回北中野中学校区地区懇談会に出席。(武蔵台小学校にて)
- 7月26日 地域防災協定及びボランティアの派遣について稔ヶ丘高校との意見交換会をおこなった。(都立稔ヶ丘高校にて)
- 29年2月1日 第2回北中野中学校区地区懇談会に出席。(都立稔ヶ丘高校にて)

地域支援事業：乳児院本体事業の他、次の3つの事業を実施している。

○ショートステイ

中野区2名、練馬区2名のほかに今年度より、板橋区からのショートステイを2名受けることになった。利用理由としては、育児不安が多く、他は疾病や次子出産、就労などである。

○ つどいの広場

昨年同様、週に3日+月に1度の土曜日に実施している。身体測定、絵本の読み聞かせや紙芝居の時間などのほか、講師を依頼しベビーマッサージや、ヨガ、親子エアロビクスを実施している。

1月18日には歯科の先生を招いて講演会を行なった。7月7日には縁日を開催。9月5日には起震車の体験の呼びかけをおこなった。10月19日人形劇の観劇、12月13日クリスマス会を実施した。

○ 病後児保育

1歳児の利用が最も多く10名、4歳や、6歳の利用も1名ずつあった。昨年度0歳で利用したことのある児が今年度も利用するケースが多かった。上の児のときに利用したことのある保護者が、今年下の児で利用するケースもあった。予約が入っていても当日の朝、キャンセルになる件数は32件だった。

	ショートステイ		
	中野区	練馬区	板橋区
利用者数	13 (20) 名	17 (15) 名	19 名
延べ泊数	172 (322) 泊	115 (97) 泊	115 泊

	病後児保育	集いの広場
	中野区	中野区
利用者数	26 (53) 名	児童 3504 名 (2678 名) 保護者 2966 名 (2369 名)
延べ日数	53 (94) 日	開所日数 155 日 (162 日) 週 3 日 (月・水・木) 及び月 1 日 (土)開所

* () 内は昨年度実数

(9) 職員

細菌検査、健診（やよい診療所他による）、インフルエンザ予防接種の実施。ストレスチェックを実施した。

(10) その他

①第三者評価

福祉サービス第三者評価受審は昨年と同じく株式会社IMS ジャパンに依頼した。評価結果は別紙報告事項の通りである。

②苦情解決

5月、一時保護で短期間入所しすでに退所した児童の保護者から入所中の記録の開示請求があった。法律的な問題について、顧問弁護士の小嶋正氏に相談しながら適切な対応をとることができた。12月のクリスマス会に苦情解決委員を招待し、あわせて、苦情解決委員会を開催した。児らの怪我やかみつきについて完全になくすことは難しいかもしれない。利用のご案内に一文をいれておくのも一つの方法である。しかし薬の準備忘れは職員の工夫でなくすることができるものである。どうやったらなくしていけるのか、引き続き分析し努力して行ってほしいとアドバイスをいただいた。

③その他

* 6月23日専門養育機能強化型乳児院の件で東京都の計理視察があった。

* 9月6日東京都指導検査 AM10:00~PM5:30 検査員4名来院。検査終了後の講評で受けた指摘事項・指導事項は次の通りである。

後日文書で「検査結果」の通知を送るが、この文書で改善の指摘がない場合は、本日の口頭での指導が改善を図るべき事項となる。(後日、文書指摘はなしとの通知があった。)

(ア) 運営：室主任

- ・ 理念の周知については概況や事業計画に盛り込まれている。
- ・ 権利擁護について確認した。(取り組みができているとの評価、さらに保護者への周知として、職員が子どもたちに不適切な関わりを行なわないという意思表示を「利用のご案内」に載せるとよい)
- ・ 保護者等の苦情解決について、第三者委員会において事故報告や利用者調査等についても諮るとよい。第三者委員会を適切に開催し、議事録も残すこと。
- ・ 個人情報利用目的を特定し、明記すること。
- ・ 個々の職員の研修計画を拡充していくとよい。(これからどのような職業人生を築いていくか)

(イ) 処遇：佐藤氏

- ・ 指摘事項として、事業計画について乳児院の養護の根幹となる各室の養育計画、栄養士、心理士、里親支援専門相談員、家庭支援専門相談員、看護師の年度業務計画を盛り込むとともに、計画の中間評価、総括を行なうなど適切な進行管理をすること。さらに、計画の作成にあたっては前年度の計画の総括、分析を適切に実施願いたいと指導を受けた。

(ウ) 処遇：古沢氏

- ・ 専門養育機能強化型乳児院の最大の目的は子ども達の傷つき体験に対し、専門職が連携し支援していくことと思われる。出来るだけ早いうちに、スピーディな支援対応とシームレスな支援体制(適切な役割分担)と連携体制を図り整えて行って頂きたい。まだ、始まったばかりの取り組みであり、時間はかかると思われるが取り組んで行って頂きたい。

(ウ) 会計：田中氏

- ・ 小口現金出納帳と領収書の日付けがかい離しないよう努めること。かい離する場合は理由を補記すること。